

令和 6 年度 東京都立狛江高等学校学校経営報告

校長 細 野 誠 治

1 今年度の目標の成果と課題

目標1(学習指導)授業日の確保と生徒の学力向上につながる教育活動の充実

- ア 高校3年間で生徒が体系的かつ効果的な学習を行えるよう、各教科・科目において「シラバス」に基づく年間授業計画を4月に策定し、週ごとの指導計画に具体化して計画的に授業を展開した。
今後、教養教育の推進と国公立・難関私立大学進学に対応できる学力の向上を目指し、より一層の授業力向上を図っていく。
- イ 生徒が十分な授業時間の中で学習できるよう、概ね隔週で「土曜授業」を実施するなどして、授業を確保した。
- ウ 大学入学共通テスト等の分析・研究をさらに進め、その結果を1、2学年ケース会議及び各教科会で共有し、定期考査等に、新傾向の問題を出題した。今後の課題として、知識・技能だけではなく生徒の思考力・判断力・表現力やその土台となる読解力をさらに伸ばす授業を行う。
- エ 英語教育推進校として、英語の4技能検定試験(GTEC)を実施して、生徒の現状を把握し、生徒の英語の4技能をバランスよく伸ばす授業を行うとともに英語検定試験の受験を促進した。
- オ 模擬試験の事前学習、事後学習にClassiの学習動画を活用した。今後更なる活用を促進して、模擬試験の事前・事後指導をより充実させていく。
- カ 総合的な探究の時間において生徒が自ら主体的に設定した課題について仮説を立て、検証する、仮説検証型の探究学習を都立大学や創価大学と連携しながら行った。
- キ 授業形態の幅を広げ、ClassiやTeams等のクラウドサービスを活用し、学校作成の教材の配信やオンライン教材の提示等を行い、生徒が自宅学習でも充実した「学び」ができるようにした。

目標2(進路指導)大学入学共通テスト等への対応

- ア 生徒のキャリア教育における各能力(基礎的・汎用的能力)を育成するため、進路指導部が中心となって年間の「キャリア教育全体計画」をもとに、学年に安定した教育プログラムを提供した。今後の課題として、高いレベルの職業理解や学部・学科研究指導をさらに深め、個別の進路相談をより充実させるなどして、生徒が総合的なキャリア・プランニングをできる能力を育成していく。
- イ 体系的な進路面談計画を策定し、生徒が自己の進路目標を早期に確立できるよう、各学年2回以上の面談を実施した。また、必要に応じて三者面談を実施することで、家庭と連携して生徒への支援を効果的に行うことができた。
- ウ 大学入学共通テスト、総合型選抜／学校推薦型選抜等に対応するため、大学入試制度に関する情報を、外部機関を活用しながら生徒や保護者に、時宜を逃さず提供した。
- エ 計画的・効果的な夏期講習・冬期講習を早期に立案し・提示し、生徒の進路希望に合わせ国公立大学や難関私立大学等の対策講座を設け生徒の学力向上に寄与した。
- オ 生徒の学力状況や志望大学の分析・検討会を実施し、個々の生徒の進路目標と現状を把握した上で効果的な進路指導を行った。
- カ 進学指導研究協議会加盟校の進学指導に関する優れた事例を各教科内で共有した。

目標3(生活指導)安心・安全で健全な学校生活の実現と生徒のメンタル・ケアへの配慮

- ア 生活指導部が中心となり各学年担任と連携して、遅刻指導・服装指導を行った。今後の課題としては、生活指導部の更なるリーダーシップ強化と担任をはじめとする各教員の個々の生活指導力を高めていくことが大事である。
- イ 体育祭、文化祭、合唱祭の狛江三大行事を、生徒の主体性を育みながら、事故なく実施することができた。

- ウ 生徒の主体性を伸ばすため、生徒会を活性化し、各委員会の自律的運営力を向上させた。今後の課題として、すべての生徒に校内美化意識や学校外でのマナー・常識を保つ意識を身につけられるようすることで、生徒が自らの言動を律することができるよう狛江生としてのプライドを育てていく。
- エ セーフティ教室や学級・学年での安全指導を年間で3回行い、盗撮・盗難防止、交通ルール・情報モラル遵守、薬物濫用防止等の意識を高めた。
- オ 保護者、家庭との連携体制を強化し、いじめゼロ、不登校ゼロ、特別指導ゼロに向けて取り組んだ。
- カ 感染症の校内における予防法(換気・手洗い等)の啓発を行うとともに、スクールカウンセラーを効果的に活用し、メンタル面に不安を感じている生徒へのケアを充実させた。

目標4(国際理解教育)国際交流事業の安定的な継続・環境整備

- ア 国際交流推進校として、姉妹校であるオーストラリア・キラウィ高校との短期交換留学を昨年に引き続き8月に行い、現地で正式に調印式を行い、姉妹校協定を締結した。11月にキラウィ生を約1週間受入れ、授業や特別活動、歓迎会・送別会で、「活きた国際交流」を本校生徒たちに体験させることができた。今後、姉妹校交流を、より一層安定的なものにすることを目標に、ホストファミリーとの事後反省会等で出た意見をもとに次年度に向けての改善を図っていく。
- イ 国際交流推進校として、5月に姉妹校である台湾の台北市立大同高級中學の生徒約30名を本校に迎え歓迎会を行うとともに2年生の生徒の各教室で様々な交流プログラムを実施し、親交を深めた。また、10月に海外修学旅行として台湾を訪れ5年ぶりの大同高級中學との調印式を現地で行い、姉妹校協定を締結し、次年度以降の更なる交流について協議した。
- ウ 国際交流委員会の活動を促進し、1学期に日本の大学で学んでいる留学生との交流行事として、1・2年生の国際理解講座を実施し、バングラディッシュ、ベトナム、フィリピン、ブータン、ウズベキスタン、ミャンマー等から来日している留学生たちに、各クラスで、それぞれの国の生活の様子や風習、文化、言葉、食べ物などについて、英語で紹介いただき本校生徒の世界に対する視野を広げた。
- エ 国際理解教育の一環で10月にウクライナ大使館を訪問し、大使館の役割の説明や、大使館の展示物の紹介を受けた。また、外交官になるまでのプロセス、外交官から見る日本とウクライナの良さ、私たちが今平和のためにできることは何かなどについて学び、国際的な視野をもつことの意義を学んだ。

目標5(特別活動、部活動)部活動の安全かつ充実した運営

- ア 各部活動は、必要な感染症対策を行いながらスポーツ庁・文化庁・文部科学省及び東京都教育委員会が示すガイドラインに沿った活動計画を定め、安全な部活動運営を行った。
- イ Sport-Science Promotion Club指定校として「東京都教育委員会 運動部活動の在り方に関する方針」に則り、科学的トレーニングを積極的に導入し、短時間で効果が得られるような合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進し、部活動における競技力を向上させた。
- ウ 部活動は、活動中の事故防止に努め、特に夏季の活動時の熱中症対策については、熱中症指数(WBGT)測定器を活用して気象状況や生徒の状況等を把握した上で、熱中症を予防した。
- エ 体育系・文化系合わせて15部活動(体育系10部、文化系5部)、30名(体育系17名、文化系13名)の部活動指導員を活用して、特定の顧問に過重負担がかからないよう配慮し、教職員のライフ・ワーク・バランスの維持を図った。
- オ 各部活動の取組や実績等について、ホームページ等を通して中学生、保護者や地域住民など広く都民に積極的に発信して、本校の教育活動への理解を深めた。
- カ 地域や近隣の小中学校等との交流に積極的に取り組み、運動部・文化部ともに部活動体験や部活動見学を通じた地域貢献に努めるとともに、狛江市の主催するイベントや行事に吹奏楽部・箏曲部・弦楽合奏部・軽音楽部・ダンス部などの部活動を参加させ、地域交流を深めた。

目標6(教育的諸課題への対応)その他の様々な教育課題への対応

- ア 狛江市青年会議所等と連携し、主権者教育を計画的に実施し生徒の理解・啓発を行うと同時に、生徒の公職選挙法違反等の未然防止に努めた。
- イ 芸術鑑賞教室等を通して日本の伝統文化教育を推進するため、生徒が日本の伝統文化「落語」に触れる

機会を設け、日本の伝統文化について世界に発信していく力を育成した。

- ウ 特別支援教育の一環として、保健委員会と特別支援学校との連携を図り、校内の各特別教室等の表示にユニバーサルデザインを取り入れ、特別支援についても国際基準を意識した活動を行わせた。
- オ 生命尊重の教育を推進するとともに、保護者との連携をより深め、スクールカウンセラーの協力を得ながら課題のある生徒への見守りを強化し、事故防止に努めた。

目標7(学校運営)安心・安全かつ安定的な学校経営

- ア 学校における働き方改革を進めるため、業務の効率化に努め、月の超過勤務時間が80時間を超える教員ゼロを目標に、会議時間の縮減やペーパーレス会議の実施など業務の効率化に取り組んだ。
- イ すべての職員に夏季休暇(5日間)を完全取得させ、約85%の教職員に年15日以上、年次有給休暇を取得させた。(ライフ・ワーク・バランスの推進)
- ウ 予算計画に基づいて、四半期ごとに執行状況を把握し、適正な予算執行を行い、自律経営推進予算を無駄なく活用した。
- エ 適正な入選倍率を確保するため、本校の特色を理解してもらうための募集広報計画を立案・実施し、その一環として、生徒が多数入学する地域(世田谷区、町田市等)の中学校、学習塾等を対象とした募集広報活動や学校案内の見直しを行った。
- オ 感染症予防の取組
生徒の登校について公共交通機関の利用時や混雑した場所などTPOに合わせた感染対策(マスクの着用等)を推奨し、感染拡大防止に努めた。また、授業実施においては、換気・手洗いを励行し、必要に応じてソーシャルディスタンスに配慮した。なお、実技指導については、年間授業計画作成において生徒の安全・安心に配慮した工夫を行った。

2 重点目標の達成度

目標1 本校を第一志望とする生徒による適切な入選倍率(一次、分割前期)の確保

- ・一次、分割前期入選で、1.81倍の応募倍率を確保した。
- ・全教職員体制で学校説明会や見学会などを実施した。
- ・学校ホームページの更新を年間130回以上行った。

目標2 生徒が、本校に入学してよかったと思える質の高い教育と満足度の高い学校生活の提供

- ・生徒の授業満足度85.8%を達成した。
- ・生徒の学校満足度(肯定的回答)95.2%を達成した。

目標3 生徒の学力向上と進路実現

- ・各学期(7月、11月、1月)に実施する模擬試験における、3教科・5教科の平均点偏差値の推移を通じて学力の伸びを把握し、1月の数値が、7月比でプラスにした。
- ・物理、生物、化学すべての理科の科目の授業に実験を多く取り入れるなどして、生徒の知的好奇心を高め理数教育の充実を図ることで、生徒に探究心を身に付けさせた。
- ・進路実績において国公立大学への現役合格者14名、難関私立大学(早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学及び東京理科大学)14名以上、GMARCH168名合格させた。

目標4 教職員の資質・能力の向上

- ・生徒の安全指導、情報セキュリティや教育相談等の職務課題に関する研修や服務事故防止を年間5回実施し、さらにOJTを推進して教職員の資質・能力の向上と服務事故の未然防止を図った。
- ・外部機関を活用した「生徒による授業評価アンケート」を実施し、客観的な視点で教職員各自が自分の授業を振り返り、生徒にとって「わかる授業」「知的好奇心が掻き立てられる授業」「力がつく授業」を目標に教員の授業改善につなげた。

目標 5 業務の効率化による教職員のライフ・ワーク・バランスの向上

・会議時間の縮減や I C T機器を活用したペーパーレス会議（企画調整会議・職員会議等）により業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスを向上させた。